

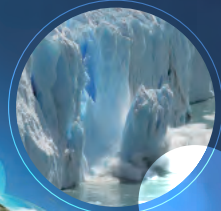


統合的気候モデル高度化研究プログラム
Integrated Research Program for Advancing Climate Models (TOUGOU)

平成30年3月8日(木)
13:00~16:40(開場12:30)

平成29年度公開シンポジウム

温暖化対策を 気候モデルでどう理解するか



参加無料
事前登録制

定員
500名

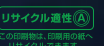
※定員になり次第締め切りとさせていただきます



一橋大学
一橋講堂 学術総合センター内
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

- 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線「神保町」駅 A8A9出口から徒歩4分
- 東京メトロ東西線「竹橋」駅 1B出口から徒歩4分

主催 文部科学省 統合的気候モデル高度化研究プログラム
プログラム事務局 国立研究開発法人海洋研究開発機構
お問い合わせ 統合プログラム公開シンポジウム事務局《(株)勁草書房内》
03-3814-7112 tougou-symposium@keiso-comm.com



統合的気候モデル高度化研究プログラム 検索

事前登録

*原則、インターネットからの事前登録となります。

<http://www.jamstec.go.jp/tougou/event/sympo/2017/index.html>





PROGRAM

開会挨拶

文部科学省

講演の全体説明

住 明正

プログラム・ディレクター 文部科学省技術参与
東京大学 サステナビリティ学 連携研究機構 特任教授



■ 気候変動対応策から見た
気候モデル研究進展の価値

秋元 圭吾 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構
システム研究グループ グループリーダー・主席研究員



■ 温暖化対策の基盤となる気候モデルの情報
～排出削減の長期目標にモデルの情報は
どのように活用されるか～

筒井 純一 一般財団法人 電力中央研究所 環境科学研究所 副研究参事



■ 気候予測の不確実性を理解する
～気候感度の研究の現状とこれから～

小倉 知夫 国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 主任研究員



■ 地球システムモデルで炭素排出と
気候変化の関係を理解する

立入 郁 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 気候モデル高度化研究プロジェクトチーム
地球システムモデル開発応用ユニット ユニットリーダー・主任研究員



総括および質疑応答

木本 昌秀

プログラム・オフィサー 文部科学省技術参与
東京大学 大気海洋研究所 副所長・教授



閉会挨拶

住 明正

プログラム・ディレクター 文部科学省技術参与
東京大学 サステナビリティ学 連携研究機構 特任教授

温暖化対策を
気候モデルでどう理解するか

平成29年度 公開シンポジウム

平成29年度から新たに「統合的気候モデル高度化研究プログラム」が発足しました。地球シミュレータの登場と機をいつにして、平成14年度から始められた「人・自然・地球共生プロジェクト」、続いて、平成19年度から始められた「21世紀気候変動予測革新プログラム」、そして、平成24年度から始められた「気候変動リスク情報創生プログラム」に続くものとして、平成29年度から始められたものです。

この間、我々の地球温暖化予測に関する科学的知見は大きく進歩しました。

本研究プログラムでは、今までの研究成果に基づき社会的な課題に対して適用しようとする動きをさらに加速させると同時に、初心に戻り気候変動に関する「根源的な問題」に取り組み、新たな数値モデルを開発することを通して、新しいサイエンスを始めることを目標にしています。

プログラム・ディレクター 住 明正

